

絆

K I Z U N A

2022 MAY

JAグループ青森 月刊広報誌 [905号]

5





JAバンクがあなたの
ライフプランをサポート

資産形成・運用はじめるぞう!

● 資産形成・運用デビュー特典!
対象期間 2022年4月1日～2023年3月31日

農業者なら
広く加入できます。

農業者年金

- 国民年金第1号被保険者
(国民年金保険料納付免除者を除く)
- 年間60日以上農業に従事
- 65歳未満※ ※2022年5月以降

独立行政法人
農業者年金基金の
ホームページはこちら



農業者年金の
新規加入で



©よりぞう

ニッポンエール



※景品画像はイメージです。

ニッポンエールは、「日本全国47都道府県から届けられる日本産のたべものに、そしてにっぽんにここからエールをおくろう。」をコンセプトにJA全農から誕生したブランドです。

ニッポンエールの詳細は
こちらをご確認ください



グミ・ドライフルーツプレゼント!

JA口座から掛金の拠出をしていただく必要があります。



JAバンク青森における金融仲介機能の更なる発揮に向けて ～『JAバンク青森中期戦略（2022～2024年度）』の実践～

去る2022年2月に、第29回JA青森県大会が開催され、「持続可能な農業と地域の実現～10年後も元気の農業と地域を目指してさらなる深化を～」を主題とする県大会議案が決議されました。

JAバンク青森では、県大会決議案に呼応する形で、2022年度から3か年にわたり実践する『JAバンク青森中期戦略（2022～2024年度）』を策定し、この4月から取り組みを開始いたしました。

今回のJAバンク青森中期戦略では、県内の各JAが現状や課題、取り巻く環境等に応じて、「農業」・「暮らし」・「地域」の各領域でこれまで以上に、金融仲介機能を発揮することを柱に掲げています。

例えば、農業の領域では、農業者向け融資の取組み強化に加え、増加する農業法人や農業者の経営の安定・成長を支援することを通じ、農業所得の向上を目指します。

また、暮らしの領域では、県内地方銀行の合併を見据えた事業基盤の維持・競争力確保の観点から、資産形成にかかる新たなサービスの提供を順次進めていくこととしております。

そして、地域の領域では、JAスマホ教室の開催等、これまでの信用事業の既存の取組みにとどまることなく、地域の活性化に資する取組みも検討・実施してまいります。

さらに、これらの機能を最大限に発揮するための土台である業務効率化、不断の取組みとして位置付けている持続可能なJA経営基盤の確立・強化、内部管理態勢の強化等への取組みに加え、新たな戦略を担う人材育成にも引き続き取り組んでまいります。

折しも昨年6月18日に閣議決定された規制改革実施計画では、農家所得向上の目標を含む自己改革の方針等を各JAが決め、改革を実践し、組合員の評価を踏まえて修正を繰り返す「自己改革実践サイクル」の仕組みを構築することが明記されました。

JAを取り巻く金融経済環境は、依然として厳しい状況が続いておりますが、組合員・利用者のために信用事業が果たすべき役割の発揮は、JAの自己改革実現の観点からも、ますます重要になるものと考えております。

JAバンク青森は、信用事業を通じた農業振興と地域活性化への役割を踏まえ、JA・農林中金が一体となって「JAバンク青森中期戦略」を着実に実践し、急速な環境の変化等に適時・適切に対応するとともに、地域の課題に応じた新たな取組みにも果敢にチャレンジし、地域利用者から確かな信頼を獲得できるよう取り組んでまいります。

JAバンク青森

絆 5 目次 CONTENTS

巻頭言	1	東北農政局通信あおもり	14
フラッシュ	2	JAごしょつがるNEWS	15
インフォメーション	4	輝き	16
実践農業者支援	10	すすめ！SDGs!	16
組織農政通信	12	誉（ほまれ）	17
経営の窓口	13		

フラッシュ

JA青森



**疲れた体もリンゴジュースにほっこり
あおもり桜マラソンにJAも協賛（4／17）**
青森市で初めてのフルマラソン大会となる「あおもり桜マラソン」が開かれ、JA青森は大会に協賛し管内のリンゴをPRするため、ゴール地点である青森県観光物産館アスパムにブースを設けて参加ランナーにリンゴジュース1500本を無料配布した。

JAごしょつがる



**リンゴ生育早まり作業前倒し
訪問日で組合員へ周知（4／14）**
JAごしょつがるりんご共防連はJA本店で、第1回薬剤散布検討会を開催。管内共防組織のオペレーターら約50人が出席し、管内の生育状況と今期1回目の防除日程、今後の防霜対策について認識統一を図った。4月15日からの組合員宅訪問日に薬剤散布目安の臨時情報を生産者へ配布した。

大好評の「花と緑の市」が開催（4／28～5／8）

JA相馬村直売所「林檎の森」にて、例年大好評の「花と緑の市」が連休中に開催された。初日は朝からお客様が長蛇の列を作り、各々野菜や花の苗を買い求めていた。直売所では様々なお客様の要望に応えられるよう同じ野菜でも品種を複数揃え、育てやすい品種を扱うよう心掛けている。

JAつがるにしきた



**ブルーを基調とした涼やかな花を咲かせるまで
（4／15）**
つがるにしきた農協津軽北部花き部会は、津軽北部花き部会長、澤田健吾さんのほ場でデルフィニウム現地栽培講習会を開いた。生産者ら10人が参加し、越冬栽培や春定植管理のポイントについて学んだ。

JAつがる弘前



ピーマン新規作付者説明会開催（4／8）
JAつがる弘前指導部指導課はJA本店で、今年度新規にピーマンを作付けする生産者を対象に作付説明会を開催した。説明会では、同課生産係の職員が、定植までの作業の流れと必要資材や開催予定のセミナーについて説明した。

JA相馬村



JA津軽みらい



かまくらりんご掘り起こし（4/20）

黒石市のJA津軽みらい直売所「あっぷるはうす・おふくろの店」の「かまくらりんごの会」会員10人は、同市沖揚平地区で雪の中に埋め冬越させたリンゴ59箱（20^{kg}／箱）を掘り起こした。「かまくらりんご」は今年で15年目、即売会ではすぐに完売する人気商品。



JAゆうき青森

まっしぐらの高品質・安定生産を目指す（4/26）

JAゆうき青森稲作生産部会は水稻育苗現地講習会を天間林地区8カ所で開催し、生産者50名が参加した。上北地域県民局地域農林水産部農業普及振興室の講師から今後の育苗管理と除草剤使用基準について説明が行われた。

JA十和田おいらせ

ナガイモ春掘り終盤 細く長めも食味良好（4/25）

JA十和田おいらせ管内でナガイモの春掘り作業が終盤を迎えた。4月25日現在、掘り取りの進捗率は8割。全体的に細く長めであるが、食味は良好。地温が高まれば品質に影響するため、JAでは4月下旬までに入庫を済ませるよう農家へ呼び掛けた。



病害虫の予防防除の徹底を呼び掛け

ニンニク講習会（4/20・22）

おいらせ農協やさい推進委員会ニンニク部会は六戸地区（20日）と三沢地区（22日）で第一回ニンニク講習会を開催し、六戸地区は約60名、三沢地区は約40名が参加した。上北地域県民局農業普及振興室三沢分室の講師は、現時点でニンニクの生育は平年並み、病害対策は降雨前の予防防除を徹底するよう呼び掛けた。

JAおいらせ



Instagram 開設記念キャンペーン（3/21～4/21）

JA八戸ではJAの更なる認知度向上を目的に、インターネット交流サイト（SNS）Instagramの開設記念キャンペーンを行った。キャンペーンはJAのアカウントをフォローし、「#べじすけ」とタグ付け投稿すると、抽選で10人にJA八戸管内で生産された「まっしぐら10kg」をプレゼント。今後もSNSを活用し、より幅広い世代へ情報発信し、アピールを行う。

JA八戸



絆4月号のJA八戸の掲載内容に一部誤りがありましたので、お詫びいたします。正しい内容は下記のとおりとなります。

誤：JA八戸野菜総合部会は、～販売金額64,665万円を目指す。

正：JA八戸野菜総合部会は、～販売金額646,650万円を目指す。

会長・副会長年度あいさつ

JAグループ青森四連の雪田徹会長は4月6日、青森市の農協会館で年度始めのあいさつを行った。在館団体の課長級以上の職員約50人が参加した。

雪田会長は、各団体へのこれまでの取り組みに感謝の気持ちを述べた後、「皆さまのお力添えと共に新年度も頑張りたい」と力強く抱負を述べた。

齊藤勝徳副会長のガンバロー三唱でJAグループ青森の一体感を高めた。



▲年度の抱負を述べる雪田会長



▲ガンバロー三唱する齊藤副会長と各団体代表ら

JA青森県青協が総会 70周年記念式典開催に向け更なる団結へ

青森県農協青年部協議会（JA青森県青協）は4月12日、青森市で2021年度通常総会を開き、役員およびJA青年部長ら約30人が出席した。21年度の活動報告や22年度の活動計画を承認。22年度

もJAつがる弘前青年部の成田啓輔さんを委員長に選任した。

昨年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響で県青年大会や交流会がWEB開催となってしまったが、今年度は可能な限り実開催で実施し、盟友相互の団結力を強化していく。

また、22年度は同協議会が70周年を迎える。盟友が一致団結し、記念式典を開催する。

成田委員長は「農政活動の更なる強化と、SNSを使った積極的な情報発信を実施し、青年部に求められることに真剣に答えていきたい」と決意を述べた。

副委員長は次の通り。

▽土岐元文（JAごしょつがる青年部）

▽沼田泰昭（JAおいらせ青年部）



▲抱負を述べる④成田委員長と青年部役員ら



▲団結力強化を確認する参加者

第68回女性協通常総会

青森県JA女性組織協議会（JA青森県女性協）は4月20日、青森市で2021年度通常総会を開き、

提案した全5議案が承認された。

参加者は検温と手指消毒を実施、座席間にアクリル板を設置するなど、感染対策を行い、女性部役員ら約90人が参加した。

成田縫子会長はあいさつで「22年度は、3カ年計画の「JA女性 想いをひとつに かなえよう クローバー」の取組み初年度。女性部員の想いを共有することで、組織強化につなげたい」と意欲を述べた。

総会では、エルダーミセス部会の廃止も承認、代表の齊藤きみさんに記念品を贈呈した。同部会の会員は今後「きらきらサークル」が開く研修会等に参加する。



▲あいさつする成田会長



▲記念品を贈呈される齊藤さん㊟



行事（5／10～6／10）

5月

- 11日 定例理事会（県農協会館）
- 11～12日 初級職員研修会（県農協会館）
- 11日 県JA女性協定例理事会（県農協会館）
- 11日 県参協総会・定例会・研修会（青森市 海扇閣）
- 16日 東北北海道地区JA女性協通常総会・第1回会長・事務局合同会議（県農協会館）
- 16日 資産査定基礎研修会（県農協会館）
- 18日 県農協生活指導員連絡協議会通常総会・研修会（県農協会館）
- 18日 県JA農業労働力支援センター連絡協議会（県農協会館）
- 18日 JAグループ青森四連農業者支援事業担当部課長会議（県農協会館）
- 19日 県JA直売所協議会（県農協会館）
- 19～20日 中堅職員研修会（県農協会館）
- 20日 農業労働力確保作業部会（県農協会館）
- 20日 新規就農者支援対策作業部会（県農協会館）
- 23日 内部監査・リスク管理担当部課長・担当者会議（県農協会館）
- 27日 担い手対応活動推進会議・担当者研修会（県農協会館）

6月

- 3日 次世代リーダー育成研修会オリエンテーション（県農協会館）
- 3日 営農担当部課長会議（県農協会館）
- 6日 県JA女性大会（県農協会館）
- 7～8日 監督者研修会（県農協会館）
- 9日 定例理事会（県農協会館）
- 9日 県JA協議会通常総会（青森市 ホテル青森）
- 10日 県JA直売所協議会（県農協会館）

2022年度

JAバンク青森推進大会を開催

JAバンク青森は4月19日、青森市で2022年度JAバンク青森推進大会を開催し、県内JA役員約80名が参加した。

大会は、新型コロナウイルス感染防止対策を講じ、規模を縮小して3年振りの開催となった。

開会にあたり、JAバンク青森運営協議会雪田徹議長が「自己改革に終わりはなく、我々JAバンク青森、そしてJAグループ青森は、農業振興と地域活性化への役割を発揮し、農業者や地域の方々から「無くてはならない存在」との評価を勝ち取り、それをしっかり発信していかなければならない。」と挨拶。

また、今年度からスタートする『JAバンク青森中期戦略（2022～2024年度）』の概要が報告され、JAを取り巻く実情に応じて、「農業」・「くらし」・「地域」の各領域でこれまで以上に金融仲介機能を発揮し、地域利用者から確かな信頼を獲得できるよう取り組んでいくことを確認するとともに、JAおいらせ沖澤繁弥組合長が読み上げた大会宣言を採択した。

最後に、斉藤勝徳副議長が「JAバンク青森中期戦略」に真摯に取り組み、果敢にチャレンジしていくことが、組合員・利用者の期待に応え、さらには、青森県の農業の

発展と地域貢献につながる。」と挨拶し閉会した。

大会では、2021年度の県域表彰が行われ、優績JA表彰でJAおいらせ、優績店舗表彰でJAつがる弘前 弘前中央支店が最優秀賞を受賞した。

県域表彰の受賞JAと受賞店舗は次のとおり。

【優績JA表彰】

最優秀賞 JAおいらせ
優秀賞 JA青森
奨励賞 JA八戸

【優績店舗表彰】

最優秀賞 JAつがる弘前 弘前中央支店
優秀賞 JA十和田おいらせ ももいし支店
奨励賞 JA青森 本店
敢闘賞 JA十和田おいらせ むつ支店
同 JAおいらせ 本店
同 JA十和田おいらせ 横浜町支店
同 JA八戸 下長支店
同 JA青森 中央南支店
同 JA青森 大野支店
同 JA十和田おいらせ 十和田湖支店



▲県域表彰を受賞したJAならびに店舗の代表者

行事（5／10～6／10）

農林中央金庫

5月

10日 貸出事務手続研修（県農協会館）
11～13日 貯金・為替初任者研修（*）
16日 国庫金研修（*）
17～18日 信用事業新任管理者研修（*）
19日 不正不祥事未然防止研修（*）
20日 内部管理態勢向上研修（*）
23日 貯金・為替初任者研修（*）
24日 窓口応対研修（県農協会館）
25日 融資初任者研修（*）
26日 窓口ライフイベントセールス研修（*）
27日 国庫金研修（*）

6月

6日 内部統制の基本研修（*）

7～8日 信用事業マネジメント実務強化研修（県農協会館）
8～9日 信用事業新任管理者研修（*）
10日 青森県JA信用担当部課長会議（県農協会館）
（*）はウェブ会議

農協電算センター

5月

11日 定時取締役会（県農協会館）
16～27日 窓口端末機操作研修（貯金・OTM）・3回開催（県農協会館）

6月

3～10日 窓口端末機操作研修（貯金・OTM）・2回開催（県農協会館）
9日 臨時取締役会（県農協会館）

県りんご共同防除連絡協議会・共済会 第67回総代会を開催

青森県りんご共同防除連絡協議会・共済会は4月7日、青森市の県農協会館で第67回総代会を開き、令和4年度計画を承認した。近年、農薬散布中の事故が多発していることを受け、昨年度に引き続き「スピードスプレー等傷害事故防止運動の推進強化」を最重点事項とし取り組むこととした。安全作業研修会の実施や、各園地にのぼり等を掲示し、安全対策の普及啓発活動を実施する。また、「病害虫防除推進強化運動」や「若手オペレーターの育成などによる組織の強化」についても重点事項に位置づけ、地区共防連との密接な連携のもと、取り組みを進めることとした。

葛西範正会長は、3年産の病害虫発生状況について「各共防において、適期適正散布が実施されたことで、黒星病の発生は少なく推移した」と振り返った。また「傷害事故防止運動で安全に対する意識を高めて欲しい。組織一体となり事故防止に努めていきたい」と協力を求めた。

共防組合活動の発展に貢献した1団体、5個人に共防功労賞を贈呈した。受賞者は次の通り。かっこ内は地区連名

▽共防功労賞

【団体】駒の台共同防除組合（大鰐）

【個人】有馬修治（浪岡）

柴谷松雄（つがる市柏）

西澤 正（岩木町）

佐藤幸雄（津軽みらい黒石農協）

堀内重男（南部町南部）



▲総代会の開催にあたりあいさつする葛西会長

2022あおもり桜マラソンに協賛

JA全農あおもりが協賛する「2022あおもり桜マラソン（主催：青森市、（一財）青森陸上競技協会、あおもり桜マラソン実行委員会）」が4月

17日、青森市で開かれた。

フィニッシュゲートが設置された青い海公園（青森市）にスポンサーブースを出展し、青森いきいきやさいレディの2人がランナー1000名を対象に「県産品ふるまいセット」を配布した。

ふるまいセットは、青森米「青天の霹靂」を使用した「おにぎり」・「カットりんご（サンふじ）」・「ながいもフィナンシェ」・「県産牛乳」・ジュース「青森の桃100」・全農あおもりアグリショップ青森店で使用可能な「500円クーポン券」の全6種類を詰合せしたもの。

受け取ったランナーからは「たくさんもらえて嬉しい」「おにぎりが美味しかった。もっと食べたい」等のコメントが寄せられた。

全農は食を通じてアスリートをサポート・応援する取り組みを進めている。同イベントへの協賛はその一環で、他にも卓球やサッカー等のサポートもしている。



▲ランナーに配布する青森いきいきやさいレディ

行事（5/10～6/10）

5月

11日

運営委員会（県農協会館）

6月

9日

運営委員会（県農協会館）

交通安全教育車（ふれあい号） 搭載機器寄贈式の開催

J A 共済連青森は3月29日、青森県免許センターで青森県警察本部に対し交通安全教育車（ふれあい号）搭載機器を寄贈した。

この活動は、地域住民の交通安全意識の高揚と交通事故の未然防止を目的としている。

寄贈式では、J A 共済連青森福士雅巳本部長から青森県警察本部櫻井美香本部長へ目録が手渡された。

櫻井美香本部長から「青森県の交通事故件数は年々減少傾向にある。たくさんの企業や団体が日々交通事故防止に取り組んでくれているからである。ふれあい号に搭載されているたくさんの機能を小さい子供からお年寄りまで幅広い世代に体験してもらいこれからも交通事故の減少に努めていきたい。」と感謝の言葉が述べられた。



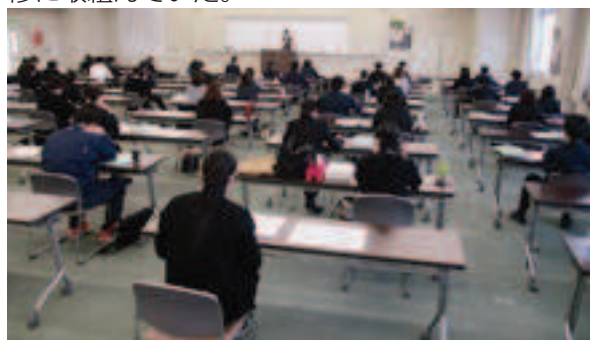
▲寄贈する福士本部長（右）と櫻井本部長（左）

共済基礎知識研修会 基礎知識コース・L A 推進活動コースの開催

J A 共済連青森は4月5日～8日、青森市の青森県トラック協会大研修室と県農協会館において、J A 共済の基礎知識、共済仕組みのポイントを理解し、お客様対応力の向上を図ることを目的として、共済基礎知識研修会（基礎知識コース・L A 推進活動コース）を開催した。新任L A（ライフアドバイザー）・共済担当者・スマイルサポーターを対象として4日間で計187名が参加した。

同研修会では「共済事業に関する基礎知識」「ひと・いえ・くるまの仕組みのポイント」等の研修を受講した後、知識の習得を目的に理解度確認テストを行った。

参加者は今年度の共済推進に向けて意欲的に研修に取り組んでいた。



▲意欲的に取り組む参加者

交通安全ラッピングバス運行式の開催

J A 共済連青森は4月5日、八戸市営バス旭ヶ丘営業所で「J A 共済ラッピングバスの運行式」を行った。交通事故未然防止活動の一環として、地域住民の交通安全思想の啓蒙を図ることを目的としている。

スローガンをカラフルなイラストで車体側面とフロントにラッピングしたバス3台を活用し、歩行者の歩きスマホと危険運転の根絶を訴え、来年3月まで交通事故防止を呼び掛ける。

運行式では、J A 共済連青森福士雅巳本部長から「地域の方々の交通安全に対する意識向上と交通事故の未然防止に貢献し、1件でも交通事故が少なくなることを願っています」とあいさつがあった。

その後、運行の無事を祈って関係者らがテープカットを行った。

交通安全スローガンをテーマに掲げたスローガンは「反射材光って目立って金メダル」「自転車のすり抜け飛び出し事故のもと」「あぶないよ青でもきちんとみぎひだり」「手を上げる子どもはあなたを信じてる」「とうげこうよそみおしゃべりきけんがいっぱい」「ゆるさないハンドル・スマホの二刀流」「自転車もルールを守るドライバー」「手を上げて運転手さんにごあいさつ」「スマホじゃない見るのは前でしょ周りでしょ」の全9種類。



▲運行式のテープカットを行う関係者

左から、八戸地区交通安全協会 西村専務、J A 八戸 小原常務、J A 共済連青森 福士本部長、八戸市交通部 田中次長、青森県警察本部 津島交通企画官

Lablet's 操作研修会の開催

J A 共済連青森は4月15日・18日にJ A の本店・支店の新任L A（ライフアドバイザー）・共済担当者・スマイルサポーターを対象とした「Lablet's 操作研修会」を県農協会館で開催した。

Lablet's を活用し、ペーパーレスおよびキャッシュレス契約締結手順の習得を目的として開催し、15日に25名、18日に30名参加した。

研修内容は、午前は座学を中心にコンプライアンスやLablet's 導入の目的、基本操作などを学習し、午後はコロンプスの各種機能と契約申し込み手続き等の操作実習などを行った。

参加者はこれからの共済推進を充実したものにするため熱心に研修会に臨んでいた。



▲熱心に研修を受ける参加者

文化支援活動クリアファイル寄贈式の開催

J A 共済連青森は4月8日、青森市の県庁でJ A 共済連青森主催の書道・交通安全ポスターコンクールの令和3年度最優秀作品をプリントしたクリアファイルを県内各小・中・特別支援学校に寄贈した。

寄贈式では、J A 共済連青森福士雅巳本部長から青森県教育庁学校教育課の高橋英樹課長にクリアファイルが手渡された。

福士本部長は「一人でも多くの児童や生徒に文化支援活動として、小中学生の書写教育と交通安全思想を広め、より関心を持ってもらい、創造性を磨いてほしい」と述べ、高橋課長は「良質の作品に触れ、意識を高め、相互扶助や思いやりの精神を培うきっかけとなる」と感謝した。

この活動は、文化支援活動および交通事故未然防止活動の一環として、平成27年度から実施しており、今年度は95,000枚を寄贈した。



▲寄贈したクリアファイルを持つ高橋課長（左）と福士本部長（右）

新任L A研修会1の開催

J A 共済連青森は4月11日～14日、県農協会館において、今年度より新たに任命を受けたL A（ライフアドバイザー）を対象とした基礎研修会1を開催し、23名が参加した。



▲講師の実践的マナーの説明を受ける参加者

同研修会はL Aとしての推進活動に必要な心構えや、電話対応・初期訪問等を想定した実践的なお客様対応のマナーや共済プランの提案方法の習得を目的に行われた。

今年度より共済の推進活動を担うL Aとして新たな職務を行う参加者は、現場における効果的な共済の推進活動を行っていくために、講師の説明に耳を傾けていた。

自転車交通安全教室の開催

J A 共済連青森は4月13日、青森県警察本部と連携して、七戸町立七戸中学校で「生徒向け自転車交通安全教室」を開いた。

この教室では、スタントマンが危険な自転車走行に伴う交通事故の実演により、事故の衝撃や恐ろしさを実感することで、ルールやマナー違反が交通事故を招く危険性があることを考え、自転車交通ルールの理解と実践を呼びかけている。

参加した生徒約160人は、スタントマンによる交通事故場面の再現で、自転車運転中やトラックの内輪差での巻き込み事故を目の当たりにして、事故の恐ろしさを実感していた。

参加した生徒の代表は、「交通事故場面の再現を見て、その恐ろしさを知り、今まで以上に気を引き締めて交通ルールとマナーを守っていかねばいけないと実感した」と述べた。

5月20日にむつ市立むつ中学校、6月21日に大鰐町立大鰐中学校、同24日に鶴田町立鶴田中学校で実施を予定している。



▲事故を再現するスタントマン

行事（5/10～6/10）

5月

- 11日 運営委員会（県農協会館）
収納・共済資金管理事務基礎研修会（県農協会館）
- 12日 J-SMILE 研修会／「窓口の基本」編（県農協会館）
- 13日 共済担当管理者研修会（県農協会館）
- 18～19日 共済事務インストラクター養成研修会（県農協会館）
- 20日 自転車交通安全教室（むつ市立むつ中学校）
- 24日 共済代理店新任担当者研修会（県農協会館）
- 30～31日 J-SMILE 研修会／「自動車」編（県農協会館）

6月

- 1日 共済代理店担当者研修会（県農協会館）
- 7～8日 J-SMILE 研修会／「長期」編（県農協会館・トラック協会）
- 9日 運営委員会（県農協会館）
- 9～10日 共済事務処理担当者研修会（県農協会館）

実践 農業者支援

令和4年度 農業者支援事業に関する取組み

J Aグループ青森四連では、中央会農業対策部を総合窓口とする「県域担い手サポートセンター」機能を活かし、農業者の所得増大、農業振興に関する課題解決に向け、J Aが主体となって取組む農業者支援について連携し、令和4年度も引き続き支援していく。

今回は、令和4年度に取組む農業者支援事業に関する基本方針のうち、主な項目を紹介する。

1. 強固な農業生産基盤の構築へ向けた担い手支援と農業労働力確保支援

(1) 新規就農者支援パッケージによる新規就農者の育成・確保支援

【目標】

J A版新規就農者支援パッケージの策定をはじめ、受入体制の構築および県全体での新規就農者の年間300名以上の確保

【実施内容】

- ① 新規就農者については、県全体で年間300名以上の確保に向け、各J Aの状況に応じ「J A版新規就農者支援パッケージ」の策定等、受入体制の構築や募集方法、育成計画、就農後のフォロー等の実践の取組みを支援する。
- ② 実務研修会や情報提供を通じて担当職員の育成に取組む。

(2) 事業承継による後継者確保支援

【目標】

「第三者承継」および「親元就農」支援にかかる体制の構築

【実施内容】

- ① 第三者承継のすすめ方について、J A毎に協議、方向付けを行い、必要に応じて、受入協議会の設立手続きや経営承継者のリストアップ等、農業経営承継にかかる体制構築を支援する。また、モデルJ Aでの「第三者承継受入協議会」の運営について継続して支援する。
- ② 事業承継支援、特に親元就農支援にかかる具体的内容を検討するため、新規就農者支援対策作業部会の運営や他県における取組事例習得のための先進地視察研修を実施する。
- ③ 新規就農者を対象とした現地研修会を継続実施する。

(3) 多様な農業労働力確保支援

【目標】

農家組合員が求める働き手の確保と効率的なマッチング手法の確立および農業者の雇用意識変革

【実施内容】

- ① 「青森県J A農業労働力支援センター」において、働き手である求職者をより多く集めるために、「青森県農業労働力求人マッチングサイト」の活用推進や様々な広告媒体を使った求職者募集を企画する。
また、J Aにおけるマッチング率向上対策に関する情報交換や新たな取組みを検討するため、農業労働力確保対策作業部会の運営や他県における取組事例習得のための先進地視察研修を実施する。
さらには、チラシ等広報資材の作成により、農業者に対する雇用意識変革に向けた啓蒙活動を継続するとともに、J Aにおける労災推進について支援する。
- ② パートナー協定を締結した人材派遣会社と連携し、働き手の迅速な確保や監理団体と連携した外国人技能実習制度や特定技能制度の活用および適正な運用に向けた支援を行う。
- ③ J Aが行う無料職業紹介事業の機能強化を図るため、農作業体験会、農福連携、人材バンク制度（農業応援隊）等、求職登録者増加対策についてJ Aとともに取組む。また、観光業者等の副業による農作業活動について検討する。
- ④ 援農ボランティア活動の拡充等により、農繁期の補助労働力確保、農業者の雇用意識変革に向け取組む。

2. 農業者の所得増大と農業生産拡大への取組み

(1) 消費者との信頼を築く食の安全確保支援

【目標】

G H農場評価制度を活用したG A Pの実践とH A C C Pに基づく衛生管理実施体制の確立による食の安全確保の取組み

【実施内容】

- ① G A Pの実践については、G H農場評価員の育成および評価農場数を増加させる等、全農あおりと連携して進める。また、第三者認証G A Pの取得については、希望するJ Aに対し全中による経費助成事業等を活用しながらすすめる。
- ② H A C C P制度への対応が必要なJ Aに対し、体制整備状況を確認するとともに、必要に応じて専門家のアドバイスを得ながら実施体制の確立に向け、引き続き支援する。また、J Aによる直売所へ加工品を出荷している組合員へのH A C C P制度の普及啓蒙についても支援する。

(2) J A農畜産物直売所を通じた所得増大への取組み**【目標】**

生産拡大・所得増大に向けたJ A農畜産物直売所でのニーズに基づく生産提案や店舗運営改善

【実施内容】

- ① 県産品のP Rと消費拡大および消費者ニーズ把握のため、J A直売所協議会や関係機関と連携したキャンペーンを継続実施する。
- ② J Aによる売れ筋農畜産物の生産提案や店舗運営改善の取組みを支援する。

3. 農業者の経営課題に対応した総合的な支援**(1) 営農指導事業強化に向けた階層別営農指導員の育成****【目標】**

多様化する組合員の要望に即応し、組合員からより信頼される営農指導員の育成

【実施内容】

- ① 各J Aにおける「営農指導事業機能・体制強化方針」策定および同方針に基づく営農指導員育成計画等の策定について支援する。
- ② 高度専門的な人材を育成するため、「階層別営農指導員の育成体系」（初級、中級、上級）の確立に向け取組むとともに、同体系に基づく研修会を実施する。
- ③ 営農指導員としてのキャリア形成に必要な期間は、営農指導業務に従事できるような人事ローテーションや資格に応じた手当への反映等について、各J Aに働きかける。

(2) トータル生産コスト低減に向けた取組み**【目標】**

トータル生産コスト低減に向けた適正施肥や低コスト資材の普及拡大およびJ A振興品目への支援等により、所得増大に向け取組む。

【実施内容】

土壌分析を活用した適正施肥の推進や肥料の事前予約共同購入、農薬担い手直送規格および共同購入トラクターの普及拡大を図るとともに、J A振興品目に対する作付支援に取組む。

(3) 農業者が実施する設備投資の資金対応**【目標】**

農業者の規模拡大、生産コスト低減の取組み、法人化・大規模経営化などにもなう農業者等の多種多様なニーズに対し、出・融資業務（日本政策金融公庫受託貸付金、アグリビジネス投資育成（株）の出資を含む）を通じた資金面におけるきめ細やかなサポートにより、農業所得の増大を後押しする。

【実施内容】

J Aが窓口となって行う出・融資の円滑な取組みを支援するとともに、農林中央金庫としてもJ Aと一体となって出・融資業務に取組む。

(4) 農業リスク分野の保障提供の強化**【目標】**

個人農業者・農業法人の不安解消に向けた保障・サービスの提供強化

【実施内容】

「農業」を「ひと・いえ・くるま」に続く第4の柱として位置付け、農業者を「個人農業者」と「農業法人」に区分し、農業リスク診断活動を通じて農業者賠償責任共済のご案内などを通じたサービスの提供強化に取組む。

（中央会 農業対策部）

組 織 農 政 通 信

日本農業新聞優績ＪＡ・通信員表彰 ～令和３年度表彰結果について～

組合員やＪＡの取組みを広く紹介するため、各ＪＡの通信員が自ら取材し、日本農業新聞に記事・写真を送稿しており、令和３年度は合わせて813本（連合会を含めて1,018本）を数える。

ＪＡ青森中央会では、通信員の意欲向上を目的に、毎年度、日本農業新聞への送稿実績（送稿本数、優秀記事、優秀写真）に応じて、優秀な成績を収めた通信員等を称え、表彰を行っている。令和３年度の結果は次のとおりである。なお、令和４年５月17日開催の日本農業新聞通信員会議において表彰する予定である。

【優績ＪＡ表彰】

各賞	ＪＡ名	寄稿数
最優秀賞	ＪＡ青森	157本
優 秀 賞	ＪＡ十和田おいらせ	119本
優 良 賞	ＪＡごしょつがる	101本

【優績通信員表彰】

各賞	ＪＡ名	受賞者
最優秀賞（最多送稿本数賞）	ＪＡ青森	長内 亨公（157本）
優 秀 賞（優秀記事賞）	ＪＡ青森	長内 亨公
優 秀 賞（優秀写真賞）	ＪＡごしょつがる	新谷 幸子
優 良 賞（送稿本数50本以上など）	ＪＡ津軽みらい	佐藤 優志（88本）
	ＪＡ十和田おいらせ	谷坂 咲子（76本）
	ＪＡおいらせ	織笠 祥子（72本）
	ＪＡ八戸	田村 香穂（78本）
特 別 賞（記事段数賞）	ＪＡ十和田おいらせ	谷坂 咲子（2.421段）
特 別 賞（写真段数賞）	ＪＡ十和田おいらせ	谷坂 咲子（1.837段）

※各表彰の基準については、次のとおりです。

●優績ＪＡ表彰

最優秀賞・優秀賞・優良賞があり、前年度の年間送稿本数上位３ＪＡが対象。

●優績通信員表彰

- ・ 最優秀賞は、前年度の年間最多送稿本数ＪＡ通信員が対象。
- ・ 優秀賞は、日本農業新聞東北支所に審査していただき、優秀記事賞・優秀写真賞の２つの賞を決定。
- ・ 優良賞は年間送稿本数が50本以上か、新任のＪＡ通信員の中で最多送稿本数のＪＡ通信員が対象。
- ・ 特別賞（記事段数賞）（写真段数賞）は前年度の記事・写真10本以上の通信員のうち記事最多段数、写真最多段数者が対象。

【参考】各ＪＡ通信員からの送稿本数の推移

ＪＡ名	令和元年度	令和２年度	令和３年度
青森	35	121	157
つがるにしきた	40	33	47
ごしょつがる	14	15	101
つがる弘前	89	90	82
相馬村	23	19	21
津軽みらい	144	102	88
十和田おいらせ	133	118	119
ゆうき青森	28	52	47
おいらせ	80	66	73
八戸	100	74	78
合計	686	690	813

（中央会 農業対策部）

経営の窓口

収支予測で早め早めの経営改善を ～ＪＡ版早期警戒制度がスタート～

１．はじめに

自己資本比率が一定の基準を下回る金融機関への対応として「早期是正措置」があるが、この対象とはならないが改善の必要な金融機関に対して経営改善を促す仕組みとして2002年に導入されたのが『早期警戒制度』である。

当初の制度の考え方では、「足もとの収益指標」を基準として収益性の改善が必要な金融機関へ改善措置を実施するものであったが、2019年に見直しが行われ「持続可能な収益性」や「将来にわたる健全性」に着目した早期の経営改善を促すものとなった。

そして、これがいいよＪＡにも適用されることとなった。

２．早期警戒制度と収支予測

本県総合10ＪＡの中で早期警戒制度の適用開始となるのは、令和4年3月に決算を迎える3月決算の7ＪＡからとなる。

早期警戒制度においては、前述のとおりこれまでの考え方が転換され、決算結果が指標を下回ったら改善に着手するのではなく、5年後の収支予測を行ったうえで設定された経営指標を下回るＪＡに、経営改善のためのヒアリング等を行い早期の対策を促す方向に舵が切られた。これは、悪化した結果をもった対策では手遅れになる、あるいは経営改善に時間がかかってしまうことへの危惧から、収支予測に基づく「早め早めの経営改善」を意図したものであり、今後は各ＪＡとも自ら毎年収支予測を行って将来の経営状況を見据えた対策を実施することが求められる。

３．自己改革工程表と収支予測

令和3年6月に閣議決定された「農協改革を着実に推進するための規制改革実施計画」では、同計画に基づいて作成した「自己改革工程表」をＪＡの総（代）会において事業計画の付属資料として承認を得ることとなっている。その自己改革工程表に記載すべき事項には『自己改革を支える経営基盤の確立・強化の取組み』があり、その中で「収支見通し・取組による収支改善効果等」が求められている。自己改革工程表と中期経営計画は相互の整合性の確保が求められており、今後は「収支予測をもとにした経営改善計画としての経営計画」として策定することが必要となってくる。

４．さいごに

ＪＡの収支予測に関しては、毎年農水省に成行き収支シミュレーション等の提出を求められている。ＪＡ全中等からは経営基盤強化にかかる事業戦略策定にかかる支援ツールや早期警戒制度対応ツールとして、収支シミュレーション等の作成支援ツールが提供されており、中央会・連合会は連携して、各ＪＡにおいて収支予測実施への体制が確立できるよう支援をしていくことにしている。

現時点で構想している支援の段階としては以下のとおり。

- (1) ＪＡの決算確定数値を入手次第、成行き収支シミュレーションをＪＡへ提供する（予定：5月下旬～6月）。
- (2) 財務モニタリングデータ確定後、成行き収支シミュレーションと機械的シミュレーションを提供し、ＪＡにおける対策後シミュレーション(修正事業計画の原案)作成に活用してもらう(予定：8月～)。
- (3) (1)(2)をもとにＪＡ役員や事業計画策定担当部署と認識を共有し、次年度の収支予測の作成や事業計画の策定・修正に向けた支援を行う。

以上の段階を踏んで、今後ＪＡが自律的に収支予測を行うとともに、予測から導かれる経営改善施策を中期経営計画等へ反映していくことを、県域としてその実施に向けた支援をしていきたいと考えている。

(中央会経営対策部)

令和2年 市町村別農業産出額（推計）（青森）

1 位部門 津軽地方は米と果実、南部地方は野菜と畜産が占める

令和2年青森県の市町村別農業産出額1位部門の分布をみると、東青、西北地域は米部門、中南地域は果実部門、三八、下北地域は鶏部門、上北地域は野菜部門が多くなっており、地域の特徴がよく現れています。

県内順位では、弘前市が1位(東北1位、全国10位)、十和田市が2位(東北6位、全国34位)、3位がつがる市(東北8位、全国50位)となっています。

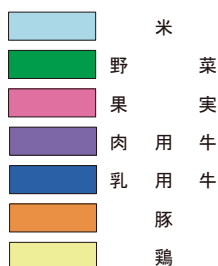


図1 1位部門の分布（令和2年）

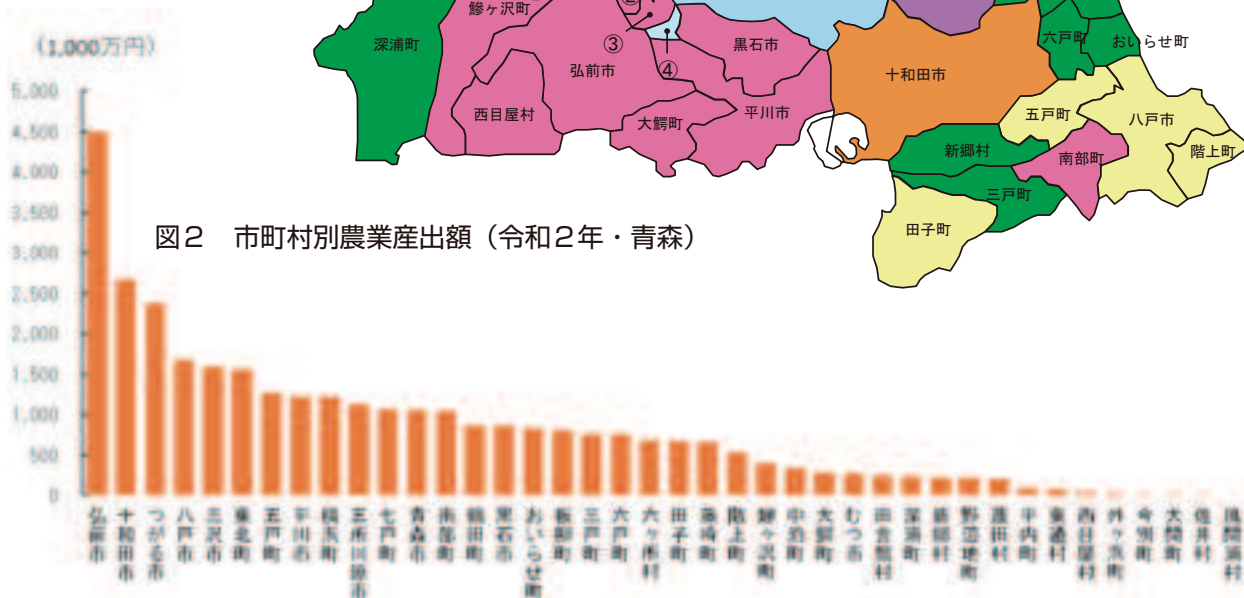
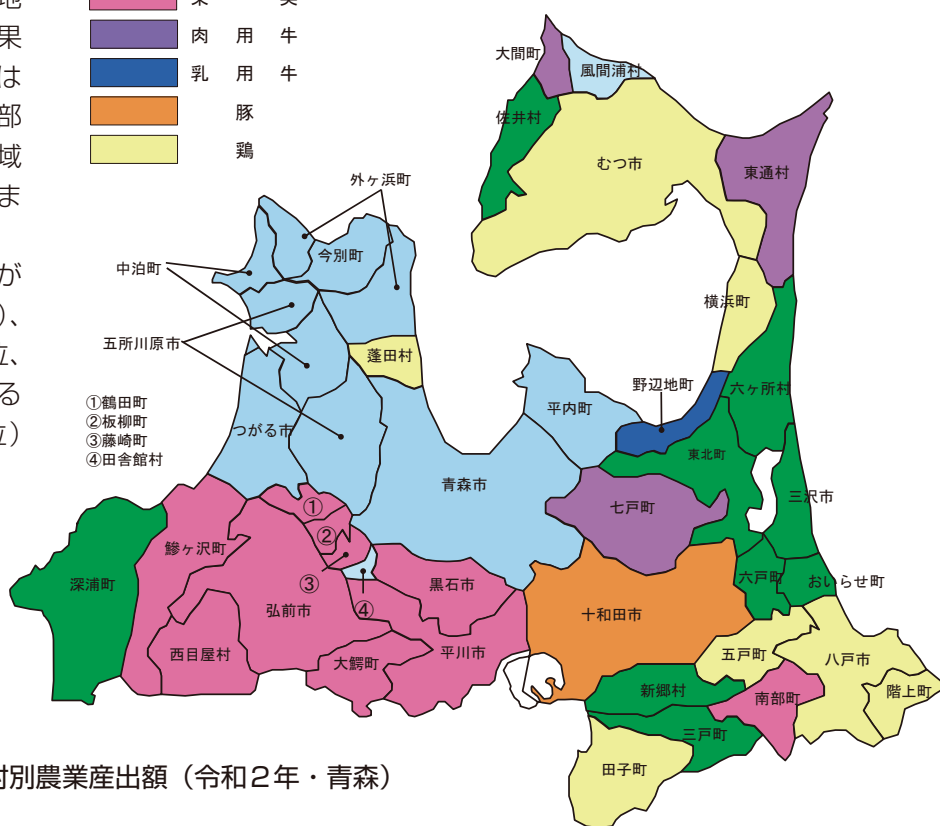


図2 市町村別農業産出額（令和2年・青森）

「令和2年市町村別農業産出額（推計）データベース」では、知りたい県・市町村を選択すると、「品目別」の農業産出額（推計）や県内・東北・全国の順位がすぐにご覧いただけます。

https://www.maff.go.jp/tohoku/stinfo/deta/gaku_R2.html



育苗施設最盛 野菜苗安定供給へ



スイカの接ぎ木作業を進める職員

渡までの管理が重なり、繁忙期は8～10人のJA職員らが土日交代で管理にあたる。日々の天気、外気温、施設内の温湿度に気を配り、苗の引き渡しを終える6月末まで、繊細な管理を徹底していく。

当JAの育苗施設では、生産者への安定供給を目的として、野菜苗の栽培管理を行っている。生産者の労力軽減と、生産意欲維持への貢献を期待する。

育苗施設での作業は、引渡しの予定日から逆算して2月上旬のネギ播種から始まり、順次トマト、スイカ、メロンなどの取扱を進める。病気に対して丈夫な苗に仕上げるため、接木作業も手掛ける。今年新たに着手し、試行錯誤して進めたスイカ苗の接ぎ木作業も、順調な発根の様子に職員は胸をなでおろしている。年々注文数が増え、供給する苗の主力であるメロンは、今年30人の生産者から約7種、およそ4万本の注文があった。

4月上旬から苗の供給が始まると、5月にかけて複数品目の接ぎ木作業と苗引



育苗施設で管理するメロン苗

農産物直売所「まるっと新鮮館」 特売日、毎月10日は「まるっと(10)の日」

五所川原市にある当JAの農産物直売所「まるっと新鮮館」は、2020年7月にリニューアルオープンした。これまで、彼岸の花特売や、農産物収穫後の即売会などを催し、季節に応じて地元利用者の生活に役立つ運営を行ってきた。



買い物を楽しむ家族連れ

今年3月からは毎月10日を特売日として定め、地元の安心・安全な農産物販売による直売所活性化に加え、新たな利用者の獲得を目指して、商品の特売やイベントを企画する。

4月10日は「スイーツフェア」を開催。出荷者が持ち込んだ、地域の伝統食である「しとぎ餅」や地元産リンゴを使った「アップルパイ」などが店頭に並んだ。発売当初から人気が高いオリジナルの特製キムチを特売で販売したほか、地元で活躍するキッチンカーを呼んだことで、日頃とは異なる年齢層、家族連れの姿が見られた。五所川原市在住という来店客は「普段は通らないが、キッチンカーのSNS（インターネット交流サイト）を見て（直売所に）初めて来た」と話し、キッチンカー注文の待ち時間に直売所内の買い物を楽しんでいた。

直売所のイベント企画を担当するJA職員は「これからも地域の皆様から愛される店舗づくりに努めていきたい」と意気込む。



農林中央金庫 青森支店
JAリテール推進班
おかだ たくと
岡田 拓斗 さん

輝き

●プロフィール

2020年4月から勤務 兵庫県神戸市出身 24歳

— 働くきっかけは？ —

大学で開催された就職説明会で、「農林中央金庫」のブースに立ち寄ったことがきっかけです。金融業界に興味があったことや、もともとのお生まれが、家の前に畑が一面に広がる土地で、農林水産業に関心があったことなどから入庫を志しました。

— 業務内容を教えて下さい。 —

昨年度までは、JAの各種実績の取りまとめや法人JAネットバンクの推進などを担当していました。今年度からは、津軽地区のJAのサポートや、個人向けJAネットバンク・アプリなどの個別商品企画を担当しています。

— 働いた感想は？ —

最も驚いたことは、若手のうちから大きな仕事を任せられるということです。仕事に責任を持ち、年齢に関係なく価値ある仕事ができるようになっていきたいと思っています。

— 仕事をする上で、日頃心がけていることは？ —

「日々成長すること」を心がけています。特に、今年度からは業務の幅がさらに広がったため、様々なことに積極的に興味・関心を持ち、金庫の上司や先輩、JAをはじめとした周りの方々に助けていただきながら、日々成長したいと思っています。

— 特技・趣味は？ —

クラシック音楽が好きです。学生時代はプロの音楽家になることが夢で、全国コンクールへの出場やプロの先生に弟子入りするなど、様々な活動をしていました。社会人になってからは、ゴルフや野球、サッカーなどのスポーツにハマっています。

— あなたが自慢できることは？ —

タコ焼きを作ることです。関西人として「タコ焼き作り」に関しては自信を持っています。

— 将来の夢は？ —

業務内外で努力を重ねて、多くの人から信頼される人間になりたいと思います。

地元短大とのコラボレシピ

JA青森では、広報誌「結び」の中で、青森中央短期大学食物栄養学科との“コラボレシピ”を掲載している。



広報誌「結び」に掲載しているコラボレシピ

同コーナーは季節感や地元食材とのズレが課題であった。そこで、レシピを通して管内の農産物をPRするため、管内で採れ、手軽に購入できるもので、そのとき旬を迎えるものを月ごとのメイン食材として設定した。学生らは月ごとに指定された食材を使い、授業の中や希望した学生個人でレシピ考案に臨む。同校の浜中幸美講師は「JAさんとのコラボは良い刺激になり、学生たちが学ぶモチベーションにもつながっている」と話す。

2022年度も同短期大学とのコラボレシピを掲載することが決まっており、今後も広報誌を通じて管内農産物のPRと様々な世代への情報発信に力を入れていく。

また、この取組を通して、持続可能な開発目標（SDGs）の目標12「つくる責任つかう責任」、目標15「陸の豊かさも守ろう」の達成を目指す。



催事カレンダー

開催日時	JA名	イベント名	開催場所	問合せ先		備考
				部署	電話番号	
5月14日（土） 試合開始9時00分～	JA全農あおもり	全農杯2022年全日本 卓球選手権（ホープ ス・カブ・パンビの 部）青森県大会	スポカルライン黒石	広報宣伝総合課	017-729-8637	



剪定作業を行う工藤さん（3月12日、青森県弘前市にて）

青森県弘前市十腰内地区でリンゴと洋ナシ栽培をする工藤滯寅（れいん）さん（19）は、就農して2年目になる新規就農者だ。

幼少期から農作業に取り組む祖父の姿に憧れ就農を決意。就農直後で、作業ごとの日数管理や金銭的な管理など事務的な仕事も多く、奥の深い仕事だと感じている。

現在は、JAつがる弘前が主催する、農業後継者研修を受講し、農業の基礎を学ぶほか、各種セミナーにも積極的に参加し、自分に合った栽培方法を模索している。

今後の目標は、おいしいリンゴを生産すること、若手農業者を増やすこと。

工藤さんは「農業に就くことをためらっている同世代がいたら、まずはやってみてほしい。農業は繁忙期に休みがないなど大変なこともあるが、手間をかけた分だけ変化が目に見え、作業ごとに様々に模索するのは楽しいから」と話した。

後編 記集

5月になり本格的に花舞う時期となりました。私の地元の弘前市でも桜が満開です（ただし桜の開花が早いので5月号が発刊される頃は、もう葉桜か？）。弘前公園では、ひさびさに桜祭りが5月5日まで開催されて、うれしいことですが、飲酒も食べ歩きも禁止！であるため何となく寂しい感じがあります。

連休に旅行の計画もしていないので、弘前公園の夜桜を観にいったか？と思います。

それにしても世の中、コロナウイルスとか、ウクライナの戦争とか騒がしい状況がいつまで続く

のか気になるところですが、この状況の影響等による物価高は皆様も気になるどころか、一番頭が痛いことと思います。

私の通勤車はハイブリット仕様ですが車のガソリン代、さらに自宅の光熱費（電気・水道・ガス・灯油）、農作業機械の軽油代等も大いに気になるところです。一日でも早く物価がある程度まで落ち着くことを心から祈るだけです。

それでは皆様、「SEE YOU ON JUNE!」（一）



ホームページアドレス

- JA青森中央会 <https://www.ja-aomori.or.jp/chuoukai/>
イベントの様子、歳時記、産直・JA情報などをご覧ください。
- JAバンク青森 <https://aomori.jabank.org/>
商品・サービスのご案内のほか、マネーシュミレーションや全国のJAバンクへのリンク等をご覧ください。
- JA全農あおもり <https://www.zennoh.or.jp/am/>
生産量日本一のりんご・にんにく・ごぼうをはじめとした農畜産物情報や活動状況、中古農機情報を紹介しております。
- JA共済連青森 <https://www.jakyosai-aomori.jp>
JA共済のご案内のほか、地域貢献活動の取組みを紹介しております。

伝えたい人に、 伝える、伝わる。

JAグループの広報・PRは日本農業新聞の広告で。



広告媒体

日本農業新聞



全国のJAなどが出資し、農業の専門紙では唯一の日報として全国31万部発行※しています。農家組合員とJAグループ、地域をつなぐ全国メディアです。



※日本ABC協会認定
2020年1～6月平均販売部数

日本農業新聞Web



農業関係のWebメディアの世界でも有数のページビューがあり、(2020年度月間平均PV数100万)、農業関係者だけでなく、幅広いユーザーに閲覧されています。記事を配信しているYahoo!ニュースからも、多くのユーザーが流入しています。

フレマルシェ



JAのファーマーズマーケットを中心に全国で25万部を配布するフリーマガジンです。食や農業に関する多様なコンテンツを掲載。食に関心の高い30～60代の女性などの消費者がメイン読者です。

お問い合わせは、日本農業新聞広告部

【Eメール】 koukoku@agrinfo.co.jp

【TEL】 03-6281-5810



THE JAPAN AGRICULTURAL NEWS

日本農業新聞

料理

健康

園芸

手芸

“家活”で暮らしイキイキ!!

年6回別冊付録付き

“lenohikari”
家の光

定価(税込)

- 普通月号 629円
- 付録月号(1・4・5・7・9月号)922円
- 家計簿付き12月号 1,027円

お申し込みはお近くのJA本・支店(所)へ JAグループ 家の光協会

〒162-8448 東京都新宿区山谷船河原町11 TEL 03-3266-9039 <http://www.lenohikari.net>



つがるロマン
TSUGARU ROMAN



青天の霹靂
SEITEN NO HEKIREKI



まっしぐら
MASSHIGURA

青森から3つの「美味しい!!」

青森米本部
aomori-komehonbu.gr.jp



©やなせたかし



宿泊代金(1人1泊あたり)

50%割引!

(最大5,000円割引)



ひとり一人の感染防止対策で、安全・安心な旅を♪

さらに!!
お一人様 **2,000円分**の
青森県おでかけクーポン
プレゼント!

予約・宿泊期間:5月9日~5月31日

※キャンペーン適用には、「ワクチン3回接種証明」または「PCR検査等の
陰性証明」の提示が条件となります。

北海道・東北ブロック割

北海道・岩手県・宮城県・山形県・福島県へ旅行の際も、農協観光の各県支
店にてお手配可能となりますので、お問い合わせください。

(秋田県は取扱店舗がございませんので、お取扱できません)

●新型コロナウイルス感染症の状況により本キャンペーンを停止する場合があります。

お申込み・お問い合わせは



観光庁長官登録旅行業第939号

ふれあいコーディネーター。エヌ・ツアー。

ボンド保証会員

旅行業公正取引
協会の会員

株式会社農協観光 青森エリアセンター

☎017-729-8800 FAX 729-8803

〒030-0847 青森市東大野2-1-15 青森県農協会館1F

総合旅行業務取扱管理者 鈴木 光輝

営業時間:平日9:00~17:30(土日・祝日休み)

当面の間、毎週水曜日もお休みとさせていただきます

株式会社農協観光代理業

青森県知事登録旅行業者代理業第26号

JA ゆうき青森旅行センター

☎0175-72-1433

総合旅行業務取扱管理者/八重樫泰浩



作品紹介

令和3年度「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクール（図画部門）



■青森県知事賞

「わたしのさいっごうのおにぎり」
 おいらせ町立木ノ下小学校 1年 宮守杏寿



■優秀賞

「お米、おいしいな」

十和田市立藤坂小学校
 1年 和田葉夏



■優秀賞

「おにぎり 食べたよ」

十和田市立藤坂小学校
 1年 一本松姫菜

